





『屋久島まぼろしの巨大杉をさがせ!』  遠崎史朗／著，川田じゅん／絵 風濤社 2015


夏休みに、新は父の故郷屋久島にきました。そこで同級生の健と道子に会い、3人で縄文杉への山登りをはじめます。途中大雨で帰れなくなり、次々と大変なことが起こります。3人は励まし合い困難をのりきります。そして3人が見たものは…。



『お米ができるまで』  岩貞るみこ／作，武田美穂／絵 講談社 2015


みなさん、お米は好きですか。この物語は新潟県魚沼市で実際に米作りをしている農家の方々への取材をもとに描かれています。雪の日も暑い日も嵐の日も、おいしいお米を作るために毎日奮闘し続ける農家の人たちのあふれる愛が感じられます。



『こども俳句の写真絵本 平和をかながえる』  木村伊兵衛 他／写真 小学館 2015


この本は、今を生きる子どもたちが、まわりの美しい自然や家族、友だちをよんだ俳句と、戦争前後の子どもたちの生活をうつした写真をならべることで、身のまわりにある小さなしあわせを感じながら、戦争と平和について考える本です。



『シノダ! 夏休みの秘密の友だち』  富安陽子／著，大庭賢哉／絵 偕成社 2015

初めてふたりだけでおじいちゃんとおばあちゃんの家へ行くことになったユイとタクミ。ふたりは「ナツギ祭り」に参加するためにやってきた、キツネの仮面をかぶった兄弟に出会います。お祭りに参加するには「手形」が必要らしいのですが…。



『波のそこにも』  末吉暁子／作，佐竹美保／絵 偕成社 2015

海の深くにあるという水底の国で、少女タマオは、海の上から落ちてきた少年を助けます。タマオは、少年と、水族の男ギョイ、宮の姫ウシオとともに、少年の大事な剣を探すための旅にでます。『平家物語』のその後を描いたおはなしです。



ながい夏休み!

「あまり本をよまないなあ。」

そんなひとは、読書感想文の本のほかに

もう1冊本をよんでみる いいきかい。

「本だいすき。」 そんなひとは、

1冊でも多く本をよむ いいきかい。

みなさん、夏休みにあと **“もう1冊”** 本をよんでみませんか。

すてきな本に であえたことは、

きっと夏休みの **いい思い出** になるかもしれません。


このブックリストでは、夏にぴったりの **おすすめの本** をしょうかいしています。



このブックリストは、出版社の許可を得て、表紙を掲載しております。 2016年7月


発行：宮崎県立図書館こどもしつ 電話(0985)29-2596



『どうくつたんけんゴー! セイルといっしょ』  長崎夏海／作, 小倉まさみ／絵 新日本出版社 2015


あさひは、学校のかえりみち、住宅わきの地下駐車スペースにすずしいところを見つけました。コンクリートがつめたくてきもちがいいのです。そこは、どうくつのなかにいるようで、すこしこわくなってきました。でもあさひのランドセル(セイル)がゆうきをくれます。



『ツツマスさんと3つのおくりもの』  こがしわかおり／作 小峰書店 2015


ツツマスさんのおしごとは、なんでもつつむことです。なぜそのおしごとをしているかって、それは、ツツマスさんがじいちゃんからのおくりものつつみをもらったとき、とってもうれしかったからです。さあ、きょうはなにをつつむのかな。



『ミラクルうまいさんと夏』  令丈ヒロ子／作, 原ゆたか／絵 講談社 2013


ちくわがだいすきな男の子が、おつかいのかえりに出会ったのは、あなをうめるのが上手な「ミラクルうまいさん」。男の子はミラクルうまいさんを「うめこん」というあだ名でよんで、ふたりでたくさんの「ミラクルうまい事件」をおこします。



『戦争と平和のものがたり』1  西本鶏介／編 ポプラ社 2015


夏のある朝、ちいちゃんの命は、おとうさんとおかあさんとおにいちゃんと、かげおくりをしてあそぶまぼろしを見ながら空にきていきました。「ちいちゃんのかげおくり」をはじめ、わずれてはならない大切な戦争のものがたりが書かれています。



『ツクツクボウシの鳴くころに』  黒須高嶺／絵, 堤しゅんぺい／作 文研じゅべにーる 2015


小学5年生の仲よし三人組。サッカーをしていると、担任の堤先生に呼び出されました。ドキドキしていると、先生から意外な話を聞かされます。それはとても信じられない話でした。運命のシンクロをとめられるのか、最後まで三人から目が離せません。



『かき氷 天然氷をつくる』  細島雅代／写真, 伊地知英信／文 岩崎書店 2015


冷たくておいしいそうなかき氷、暑い夏には食べたくなります。氷は食べるだけでなく、ものを冷やすためにも使われます。冷蔵庫がない時代には、冬にこおらせた氷を夏まで保存して使っていました。天然の氷はどのようにしてつくられるのでしょうか。



『ヒロシマ8月6日、少年の見た空』  井上こみち／文, すがわらけいこ／絵 学研教育出版 学研マーケティング 2015


両親がいて、裕里、杜夫、万里がいるそんな当たり前の日常に、戦争が少しずつ影を落としていきます。そして、8月6日、いつものように出かけた杜夫は、その日以来、姿を見せることはありませんでした。愛しい者を奪われた悲しみの記録です。



『ぼくのおじいちゃん、ぼくの沖縄』  上條さなえ／作, 岡本順／絵 汐文社 2015


学校を休むようになって2週間になるぼくは、ママから一生小学生かもと言われていました。沖縄に住んでいるおじいちゃんをさがしてきてほしいとたのまれたぼくは、一人で沖縄に向かいます。おじいちゃんは想像していた人とは少し違っていました。



『ペンギンは、ぼくのネコ』  ホリー・ウェップ／作, 田中垂希子／訳, 大野八生／絵 徳間書店 2015

小学3年生の男の子アルフィーは「ペンギン」という名前のネコをかっています。マルフィーは、いつも一番のしんゆうのペンギンととなりに住むおばあさんの家のにわにもぐりこんであそんでいました。ところがおばあさんのまごのグレースがひっこしてきて…。



『くろねこのロク 空をとぶ』  イング・ムーア／作・絵, なががわちひろ／訳 徳間書店 2015

くろねこのロクはいつも6つの家からごはんをもらっています。夏休み、飼い主たちが旅行の計画をたてはじめました。「ロクのごはんどうしようか」話し合いの結果、なんとロクもいっしょに旅行に行くことになりました。ロクの大冒険のはじまりはじまり!